

## 概観

### 【政治・社会】

- ・組織的殺人を実行し、ボリスフ首相の殺人も目論んでいたともいわれている犯罪組織が一斉逮捕後、裁判所の決定で釈放、その後再度逮捕されるなど政府の組織犯罪対策が注目された。
- ・仏の対ロマ政策（所謂「強制帰国」問題）について、国内の関連NGO及び政界では一部強い反発があったものの、ブルガリア政府は基本的に問題なしとの立場。

### 【経済】

- ・他のEU諸国に比べ、経済回復のスピードが遅れているが、輸出は3ヶ月連続で好調を維持しており、緩やかな回復傾向は維持している。一方、歳入不足により財政赤字が拡大。

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 政治・社会

### 1. 内政

#### ◆組織犯罪一斉逮捕：釈放と再逮捕

▶4日、組織的な殺人容疑で7月末に一斉逮捕された犯罪組織「キラーズ」8名のうち、7名が保釈金なしで釈放された（注：ブルガリアでは容疑者の保釈は裁判所の判断・決定に基づいて行われる）。それに対し警察幹部、ツヴェタノフ内相、ボリスフ首相等は一斉に裁判所の決定は無責任と批判、組織犯罪の取締りに（旧政権に指名された裁判官等からなる）裁判所は非協力的であると非難した。

▶それに対し、グルエフ最高破毀裁判所長等は保釈金なしで釈放されたことは無罪を意味するわけではないと説明、今後起訴及び有罪確定の可能性もあることを示唆した（その後ストヤノフ・ブルガリア相撲連盟会長を含む全ての容疑者が8月～9月中に順次再度逮捕、拘留されている。）

### 2. 外政

#### ◆仏：ブルガリア出身のロマの「強制帰国」措置問題

▶8月下旬、仏から3回に亘ってブルガリア出身のロマの一団（それぞれ十数名程度）がブルガリアに帰国した。仏国内で住民登録の手続きを行うか、帰国するかを選択肢を与え、帰国することを選択すれば一定の補助金を与えるという仏政府の政策に対し、ブルガリア国内のメディア、NGO、政界の一部は反発した。

▶一方、在仏ブルガリア大使、ムラデノフ外相は、これはロマ人への差別的な措置ではなく、関連法令を遵守しない外国人への対処として不相当とはいえないとの認識を示し、ツヴェタノフ副首相兼内相も仏政府の対応は憂慮にあたらない、また帰国するロマは強制的に帰国させられるわけではなく、あくまで自主的に帰国するものである、との見解を示している。

#### ◆ボリスフ首相：プーチン露首相と電話会談

(8月9日)

- ▶ボリスフ首相がプーチン露首相と電話会談。「プ」首相は、ブルガリアの露の森林火災被災への支援に謝意を表明した。
- ▶「ボ」首相は、被災児童及び負傷した消防士のブルガリア滞在等を提案した。
- ▶6日現在、ブルガリアは、95名の消防士を露へ派遣中。

#### ◆ゼーリック世銀総裁：ブルガリア訪問

(8月10日)

- ▶ゼーリック世銀総裁がブルガリア訪問し、「ボ」首相との間で、道路・鉄道インフラの整備及び投資の強化を含むインフラ開発協力に関する覚書に調印した。「ゼ」総裁は記者団に対し、世銀はブルガリアのEU資金吸収の促進、汚職対策、透明性確保の分野でも支援が可能と発言した。

#### ◆ペレス・イスラエル大統領：ブルガリア訪問

(8月11日)

- ▶首脳会談ではイスラエルMOSADのテロリズム対策とブルガリア当局の連携等について協議した。共同記者会見で「ペ」大統領は、ブルガリアはイスラエル・パレスチナ間の和平交渉開催地に適していると述べた。

#### ◆パルヴァノフ大統領：マケドニア訪問

(8月22日)

- ▶両国大統領は、バルカン地域の全国家がEU・NATOの枠組みに入ることを希求していることで一致、「パ」大統領は記者団に対し、ブルガリアがマケドニアのEU・NATO同化の支援に積極的である旨強調した上、両国に関わる道路、鉄道網及びエネルギーに係るインフラ建設等の分野で協力推進する意思を確認したと述べた。

#### 3. 社会

##### 2009年国民統計

#### ◆ブルガリア人口：急速な減少傾向に

- ▶ユーロスタット2009年統計によると、ブルガリアの死亡率は欧州各国中最高(14.2/千人)、また出生率-死亡率の差も独・ハンガリー、ルーマニアに次いで大きなマイナス値(-2.7)となった。さらに移住者も出国者(住所登録変更に基づく調査ベースで1万9千人)が入国者を大きく上回っており、急速な人口の減少傾向が憂慮されている。
- ▶総人口は減少を続けており、2009年時点で7.563百万人で、これは1956年時点と同水準となっている。
- ▶一方、平均寿命は男女とも10歳以上の伸びを見せており、出生率は過去15年間で最高、8万人以上の新生児が誕生した。

#### 経済

##### 1. マクロ経済

#### ◆財政赤字

- ▶2日、財務省統計局は、2010年上半期の財政赤字が対GDP比2.2%(約15億レバ)を記録したと発表した(前年の財政赤字対GDP比は3.9%)。財政赤字の主な理由としては歳入の減少が指摘されている。

#### ◆ブルガリア経済の減速

- ▶13日、ユーロスタットは、ブルガリアはEUの中でギリシア、ラトビアに次いで経済が減速して

いる旨、により発表した。第2四半期におけるGDPは対前年同期比1.5%減(第1四半期は3.6%減)。これに対し、他のEU加盟国、ユーロ圏内諸国のGDPは平均で1%増加している。

#### ◆インフレーション

- ▶30日、統計局は、7月の物価上昇はエネルギー部門における上昇が最も大きく、対前月比9.7%増、対前年同期比12%増と発表した。一方安定している分野は食品であり、対前年比±0%を記録している。

### ◆対外債務の減少

24日、ブルガリア中央銀行は、6月末現在、対外債務額は37,095百万ユーロである旨発表した。これは、昨年末時点の額と比べ、610百万ユーロの減少であり、状況は改善されている。

### ◆外国直接投資

▶16日、ブルガリア中央銀行は2010年の上半期におけるFDIの総額は385.5百万ユーロとなる見込みである旨発表した。昨年同時期の数値は今年の3倍以上であり、12.6億ユーロであった。

▶投資額の上位3カ国はオランダ（933百万ユーロ）、ロシア（103.4百万ユーロ）、米（47.3百万ユーロ）。逆にブルガリアより投資を打ち切った額が大きかった国はオーストリア（718.1百万ユーロ）、英国（82.4百万ユーロ）となっている。

### ◆輸出、3ヶ月連続上昇

9日、ブルガリア統計庁は6月におけるブルガリアの対EU輸出は35.8%の増加を記録し、3ヶ月連続の増加となった旨発表した。2010年の累計輸出額は約80億ユーロとなり、対前年同期比16.4%増となっている。EU内の主な輸出相

手国は、独、伊、ギリシャである。

### 2. エネルギー

#### ◆東芝、太陽光発電所建設

25日、株式会社東芝はヤンボル近郊に来年度中を目途に10MW規模の太陽光発電所を稼働させる旨発表した。約2000世帯の電気をまかない、総工費は約3.6百万ユーロとなる見通し。

### 3. 産業

#### ◆タバコ売上上昇

Bulgartabak社は上半期の利益が750万レバを計上し、対前年同期比約166%の増である旨発表した。主な増加理由に、輸出の好調が挙げられる。国内で販売されたタバコの本数が約10億本であったのに対し、海外の数は約57億本であった。

#### ◆第2四半期における失業者数、失業率

23日、ブルガリア統計庁は、本年第2四半期における失業者数は342,200人、失業率は10%であると発表した。これは前年同期比でそれぞれ119,600人、3.7%の増加となっている。

=====

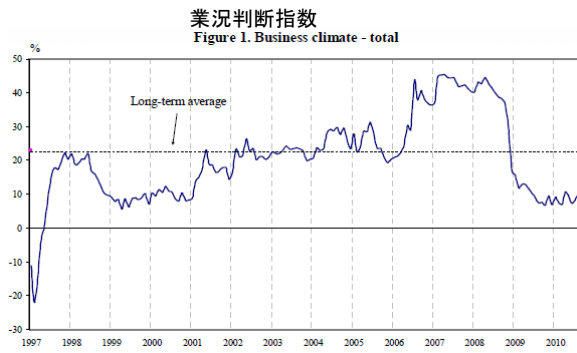
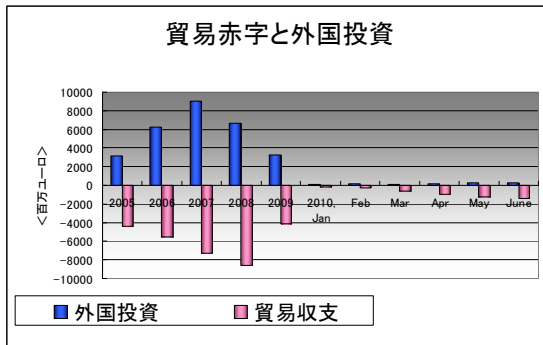
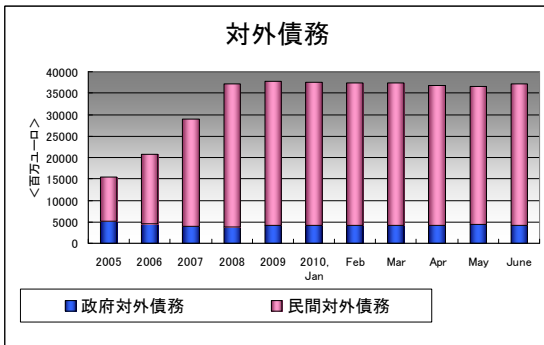
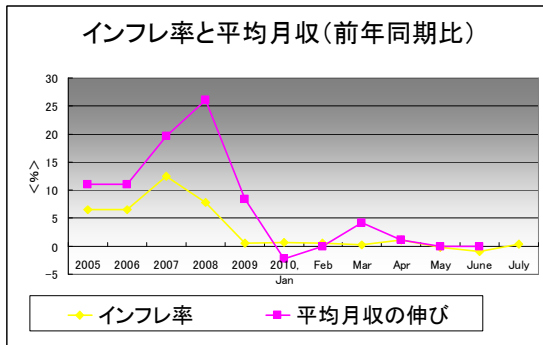
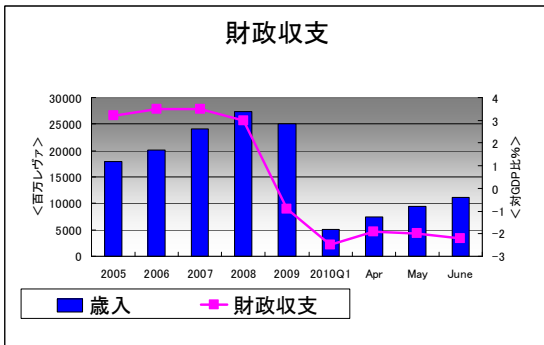
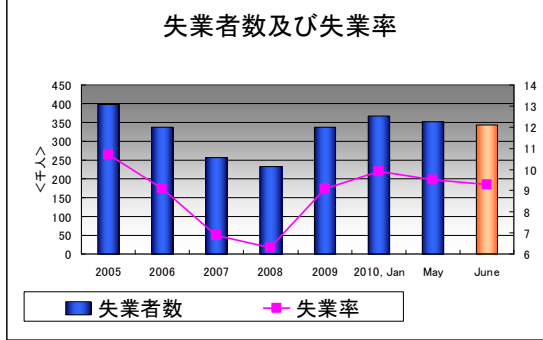
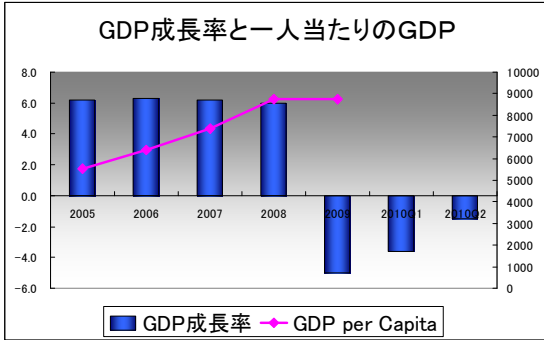
## ブルガリア内政・外交の動き（8月）

在ブルガリア大使館

1（日）	
2（月）	
3（火）	
4（水）	●犯罪組織「キラーズ」逮捕者8名のうち7名の釈放が決定
5（木）	
6（金）	☆タディッチ・セルビア大統領：ブルガリア（ヴァルナ市）訪問
7（土）	
8（日）	☆ブルガリア：ロシア森林火災に際し95名の消防士を派遣
9（月）	☆ボリソフ首相：プーチン露首相と電話会談
10（火）	☆ゼーリック世界銀行総裁：ブルガリア訪問
11（水）	☆ペレス・イスラエル大統領：ブルガリア訪問
12（木）	
13（金）	
14（土）	
15（日）	
16（月）	●財務次官（対外債務、EU資金、国際金融機関等担当）交替：ペンチェヴァ新次官
17（火）	
18（水）	
19（木）	
20（金）	☆ムラデノフ外相：オーストリア（ザルツブルク）訪問（～22日）
21（土）	
22（日）	☆パルヴァノフ大統領：マケドニア訪問（於：オフリド、ストルガ）
23（月）	☆ハリス米国ユダヤ協会会長：ブルガリア訪問（～24日）
24（火）	
25（水）	
26（木）	☆ツヴェタノフ副首相兼内相：欧州内相会合出席（於：ザルツブルク）（～27日）
27（金）	☆ツァチェヴァ国民議会議長：女性議会議長会合を開催（於：ヴァルナ）
28（土）	
29（日）	☆ムラデノフ外相：ブレッド戦略フォーラム出席（於：スロベニア）（～29日）
30（月）	
31（火）	

# ブルガリア経済指標（2010年8月）

出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所



## ブルガリア主要経済指標

### < GDP成長率と一人当たりのGDP >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010Q1	2010Q2
GDP成長率 (%)	6.2	6.3	6.2	6.0	-5.0	-3.6	-1.5
GDP per Capita (BGN)	5529	6411	7379	8753	8735		

### < 失業者数及び失業率 >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010, Jan	May	June	July
失業者数 (千人)	397	338	256	232	338	367	353	343	342
失業率 (%)	10.7	9.1	6.9	6.3	9.1	9.9	9.5	9.3	9.2

### < 財政収支 >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010Q1	Apr	May	June
歳入 (million BGN)	18012	20034	24063	27313	25040	5171	7493	9357.8	11189.2
財政収支 (% of GDP)	3.2	3.5	3.5	3	-0.9	-2.5	-1.9	-2	-2.2

### < インフレ率と平均月収 >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010, Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July
インフレ率 (%)	6.5	6.5	12.5	7.8	0.6	0.7	0.6	0.2	1.1	-0.2	-0.9	0.4
平均月収の伸び (%)	11	11.1	19.7	26.0	8.4	-2.2	-0.1	4.2	1.1	-0.1	-0.1	

### < 対外債務 >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010, Jan	Feb	Mar	Apr	May	June
政府対外債務 (million EURO)	5198	4547	4092	3902	4159	4231	4253	4217	4247	4289	4270
民間対外債務 (million EURO)	10309	16144	24925	33198	33547	33258	33107.0	33034	32595	32230	32824

### < 貿易赤字と外国投資 >

	2005	2006	2007	2008	2009	2010, Jan	Feb	Mar	Apr	May	June
外国投資 (million EURO)	3152	6222	9052	6697	3213	63.3	209.6	131.5	184.8	239.6	253
貿易収支 (million EURO)	-4410	-5562	-7245	-8597	-4103	-176.5	-288.1	-599.6	-937.5	-1246.9	-1398.5
輸出 (million EURO)	9466.3	12011.9	13511.9	15203.8	11786.5	920	1921.8	3042.6	4184.1	5396.4	6807.8
輸入 (million EURO)	13876.1	17574.1	20757.2	23801.1	15889.2	1096.5	2209.9	3642.2	5121.7	6631.3	8206.4